



施設園芸技術指導士としての抱負

阿久津 文義 カネコ種苗(株)土浦支店

施設園芸技術指導士の抱負として、持続可能な環境で栽培・営農し、新しい栽培技術や環境への適応力を駆使し、地域社会に貢献すると同時に、園芸の魅力を広めることを目指します。

私はカネコ種苗(株)の農業資材・販売代理店部門の営業職に従事しています。当社は種苗メーカーとして、種苗・水耕栽培システム・園芸・農薬・農業資材の各部門があり「農業関連の総合企業」の方針のもと群馬県の本社と北海道から九州まで全国16支店5営業所を持ち、各地に根差した営業を展開しております。

私は2009年に入社し14年が経過いたしました。この間、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。技術進化によるデジタル化・健康管理(COVID-19パンデミック)・社会的平等への関心の高まり・国際情勢不安・気候変動への対応など、変化する社会情勢のなか、農業自体も変化してきました。

なかでも自然相手の農業では気候変動が実感をもって感じられるようになりました。今夏の異常な暑さをはじめ、近年の台風や大雪などの災害がこれまでとは違った地域・規模で被害をもたらすことも少なくありません。

2019(令和元)年の東日本台風では、私も千葉県で被災し、農業用施設のみならず、一般建築物にも大きな被害がありました。これまでの農業用施設自体の強度計算や補強に対する考え方方が根本から覆され、私自身、施設園芸技術指導士資格を取得するきっかけになりました。

変化する農業のなかで、現在の問題点とし

て次の5点が挙げられます。

①高齢化・労働力不足

農業従事者の高齢化が進む一方、若い世代の農業参入が不足して労働力の確保が課題となっている。

②小規模経営・非効率性

日本の農業は小規模経営が一般的であり、これが生産の非効率性や収益の低さにつながっている。

③農産物価格の低下

国内外での競争が激しく、農産物価格の低下が農家の収入を圧迫している。特に日本の農産物は輸入品との価格競争が厳しい状況が続いている。

④過渡期の農業構造

農業の構造が時代に合わない部分があり、技術の導入や経営改革が進みづらく、持続可能な農業の確立を妨げている。

⑤自然災害への脆弱性

自然災害に対し脆弱であり、台風や豪雨など農作物に甚大な被害を与えることが多い。

これらの問題は日本だけの問題ではなく、また業界内のみで解決することが難しい部分もあります。持続可能な農業を展開するためには多角的な観点から、技術・情報を取り込みこれらの問題を解決していくかなければなりません。

農業関連の総合企業として問題解決に尽力するとともに、施設園芸技術指導士としてこれからも精進し、学んだ知識を活かし業界の発展に尽力したいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。